

令和 4 年 8 月 22 日

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員 門脇 輝明

令和 4 年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	令和 4 年 8 月 1 日 (月) ~ 2 日 (火)	
2	研 修 地	大山町役場本庁舎 オンライン研修	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) 政策に強い議会をつくる—討議する議員・役立つ議会—	(発信地)
		(2) 市町村における脱酸素のススメ	全国市町村国際
		(3) 人口減少時代における地方創生を進めるポイント	文化研修所
		(4) 自治体 DX の基本と議会の役割	出席 117・OL109
4	研 修 結 果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>(1) 政策に強い議会をつくる—討議する議員・役立つ議会— 講師：中央大学教授 磯崎 初仁先生</p> <p>自治体議会の在り方、議会の権限、政策審議のポイントなど基本的な事項の他、議会の政策力の強化や議会事務局のサポート体制の強化について話が合った。</p> <p>興味深かったのは、政策力に強化の一つの戦略として、執行機関への質問・追及が中心となっている審議において、議員間討議を拡充すべきだと述べられ、その方策として①条例の議員提案、予算や総合計画の修正案の提示など②各議員の一般質問の中で重要と考えられる事項を意見書（「当面の施策・事業に関する意見書」など）としてまとめ、議決し提出したり、予算編成時期に議会として「翌年度当初予算編成に関する意見書」などを決定し、執行部に提出するなど、③現在の討論は、各議員の意見表明のみであることから、重要議案については討論の前に「議員間討議」の時間をとる。などがあげられた。議会活性化のため可能なところから取り組んでいきたい。</p> <p>また、議員の研修内容として必要と考えられる基礎的講座を列記され、参考になった。</p>	
		<p>(2) 市町村における脱酸素のススメ</p> <p>講師：地球環境戦略研究機関上席研究員 藤野 純一先生</p> <p>五つのポイントについて話があった。①地域における脱酸素の取り組み例では、2003年から始まった長野県の取り組みを通して、エネルギーの削減と経済成長は必ずしも相反するものではないことや省エネ型住宅で健康</p>	

4	研修結果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>寿命を延ばすことが期待できることなど。②世界の温暖化対策の潮流では、温暖化のもたらす自然災害の増加の現実から、「2050年ネットゼロに向けて勝負の10年間」で社会経済の全ての側面で行動が促進・加速されていること。温暖化対策を行わない国や地域企業等に対して厳しい目が向けられ、様々な形でペナルティーが科せられる方向に動いていることなど。③ストックホルム+50 会合の振り返りでは、参加各国からの提言等の紹介が。④地域脱炭素ロードマップと第1回選考では、地域の一人ひとりが主体となって、今ある技術と再エネなどの地域資源を活用し、脱酸素に取り組むことによって地域の経済活性化、地域課題の解決に貢献できること。⑤本当に求めるべきこととは、「努力した人たちが褒められ、努力しない人たちが損をして批判される仕組み作り」である。などの話があった。</p>
		<p>(3) 人口減少時代における地方創生を進めるポイント 講師：関東学院大学准教授 牧瀬 稔先生</p> <p>「地方創生」の根拠法は「まち・ひと・しごと創生法」であるが、この法律の目的は、詰まるところ「人口減少の克服」と「地域の活性化」にある。</p> <p>人口減少対策は自然増を目指すものと社会増を目指すものがあるが、両方を同じようにやっているところは成功していない。対象となるターゲットを絞り込み切っていくことが大切である。</p> <p>「地方創生」とは、「地方自治体が、従前とは違う初めてのことを実施していく。あるいは、他の自治体とは違う初めてのことに取り組んでいく。」ことと定義できる。また、「地方自治体」から「地方政府」へと変貌を求められる取り組みでもあるなどと話された。</p>
		<p>(4) 自治体 DX の基本と議会の役割 講師：磐梯町最高デジタル責任者 菅原 直敏先生</p> <p>①DXとはデジタル技術による変革である。デジタル技術は「手段」であって目的ではない。何をしたいかが問われている。②デジタル技術の活用で大切なのは「理解すること」ではなく「使いやすさ」であって、「高齢者は使えない（使いにくい）」はナンセンス。③全ての人が使えることで、課題が解決され、大きな価値を生む。</p> <p>今、デジタル技術は①利用費用の劇的減少②利用しやすさの劇的向上③選択肢の劇的増加しており、こうしたことによって、地方自治体は、住民本位の行政を実施することが可能となり、また、そのための体制変革（トランスフォーメーション）が求められている。等の話があった。</p>

4	調査結果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>(5) まとめ</p> <p>今回の研修の何れも目からうろこが落ちるような新しい知見を得ることができ非常に有意義な研修であった。</p> <p>特に、市町村における脱酸素のススメでは、「脱炭素」を町政のメインの政策として取り組んでいくことにより、地域の活性化や人口減少対策等の諸課題につなげることも可能なことが理解でき、将来の希望が見えた。</p> <p>今後、議会活動において取り組んでいきたい。</p>
---	-----------------------------	--